

## 復興支援フォーラムニュース No. 109

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 ([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com))

<第107回 ふくしま復興支援フォーラム>

地域で見守るしくみ ～生活支援相談員活動状況調査を踏まえて～

会津大学短期大学部 久保美由紀

### 1. 人びとの暮らしを支える社会福祉実践の現在の位置

#### 1) 移動・移転を余儀なくされた人びとの空間的変遷

自宅 ⇒ 避難所等 ⇒ 仮設住宅 ⇒ 復興・災害公営住宅 / “自宅”

#### 2) 支援方法の変容

・“移動・移転”の支援 ⇒ “定住化”の支援

・“避難者”の支援 ⇒ “地域住民”の支援

#### 3) 支援内容の変容

直接的・物理的支援 ⇒ 情報提供、安否確認、関係構築等の支援

→→→ 自立生活支援、見守りシステムの構築等

### 2. 地域で見守る方法についての生活支援相談員事業の取り組みからの学び

#### 1) 全戸訪問という方法

#### 2) 継続的にかかわるという方法

#### 3) 聴く、観るという方法

#### 4) つなぐという方法

### 3. 地域でのしくみをつくる上での検討課題

#### 1) “地域”のメンバーをどう設定していくのか

#### 2) “要援護の人びと”をどう捉えていくのか

#### 3) にない手と必要なスキルをどう考えていくのか

### 4. 今後の課題：現象としての共通性の中に埋没させられる人びとの存在

~~~~~

## 第106回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

2017年2月22日、福島市AOZで、第106回ふくしま復興支援フォーラムを開催されました。

報告者は田村泰生氏（特定非営利活動法人 超学際的研究機構理事）で、「被災者が主役の復興目指して～試みとしての車座会議～」について、報告をいただきました。

18名が参加し、活発な質疑応答がなされましたが、会場で文書を提出されたご意見・ご感想等は、以下の通りです。参考にしてください。

~~~~~

★ 車座会議の実例に加え、マスコミで仕事を経験された経験をふまえて災害時の情報の話も聞けて、とても有益でした。課題を克服して多くの地域で車座会議が開催されることを希望します。（Y. I）

★ 大変有意義な取組みのお話をありがとうございました。「まちづくり」の根幹に係わる取組だと思いました。避難指示が解除されようとしているなか、「持続可能性」を目指すのであれば、産業創生というテーマで意見交換されるのは、いかがでしょうか。（A. K）

★ 初めて参加させていただきました。テレビやネットではわからない現場での動きを知ることができました。ありがとうございました。（N. W）

★ 車座会議のような場は各地で開催されるとよいなと思います。いわきの未来会議と重なって聞こえました。未来会議とのコラボ等、若い方々と一緒にやってみるのも面白いのではないかと思います。（H. S）

★ プロジェクトの内容（車座会議と情報プラットフォームとしての「ふくれっぶ」）については、詳しい説明があり理解することができたが、少人数の車座会議で住民全体の納得のいく合意形成を図れるかという点で、非常に困難であると感じた。参加者を選ぶこと、意見を言いつばなしにせず、きちんとフォローすることもとても難しい。実際にどのような成果（話し合いの集約の経過）が、出たかについても、詳しく話を聞きたかった。集合知への期待（ネット上の情報が補完されていくについては、ネット上の情報は不完全なままに広まったり、前提を欠いたまま流布されることも多い。「集合知」となるかどうかの見極めが重要と思う。「ふくれっぶ」は、情報の選別を行うとのことで期待したい。住民目線、自己決定の大切さについては大賛成。今後の取組に期待します。（S. Y）

★ 被災者が主役となる復興を目指し、被災者の生の声を「会議」に反映させるなど、被災者目線の活動が行われていることに、感動いたしました。今後の復興が順調に進められることを祈念いたします。（K. F）

★ #106回のフォーラム開催有り難うございます。（車座会議、素晴らしかったです。）今回発表の「車座会議」を含め、今後の進め方で次を加味して欲しい。①交流 Gr、チームの輪を広げ（オールジャパン化目指しながら）、方向づけして欲しい。②各 Gr、交流 Gr、チームで長期ビ

ジョンを策定して欲しい（ボトムアップ）。③それぞれの経過情報をマスコミを通じて、全国発信して欲しい。（T.S）

★ 家に住んでいなければ、どんどん朽ちて行きます。長い間、空き家ですと、修理、復興は困難と思います。早く将来設計・計画を決定、実施すべきと思います。（M.T）

★ こわされてしまったコミュニティ、人々の暮らし、住民の気持ちを復興するのは本当に大変で、時間がかかると改めて思いました。住民の声を具体的に今後の復興計画にのせていくには「車座会議」が有用である可能性が見えた内容であった。県外で受ける「いじめ」と県内で避難者が受ける分断的な言葉をどうやってなくしていけるのだろうか、と強く思いました。（M.S）

★ 対等な対話の場は、スピード重視の風潮の中で難しいが、この福島 Case から、新たな取り組みが生まれ、他の事象、他の地域に適用できればと思います。（H.N）

~~~~~

~~~~~

【予告】第108回ふくしま復興支援フォーラム 2017年4月7日（金）18:30～20:30

「神戸から福島へ：学びのネットワークという挑戦」

報告者：前川 直哉 氏（一般社団法人 ふくしま学びのネットワーク理事・事務局長）

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1

MAXふくしま4F（福島市曾根田町1-18）

~~~~~

◆◆◆◆【会場個人カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第106回ふくしま復興支援フォーラム（2月22日）の会場で、カンパ2500円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。（今野）

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

【会計報告】

第2期（2016.10.27～）

「収入」

2017.2.21まで 35,056円

会場個人カンパ(2017.2.22) 2,500円

計 37,556円

「支出」

2017.1.31まで 20,120円

「残金（現在高）2017.3.14 17,436円

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽